

経営理念		【教育目標】 【経営目標】 〈子ども像〉 〈幼稚園像〉 〈教師像〉	みかんの里の　げんきっ子 『幼稚園における生活の全体から、豊かな体験を通して生きる力の基礎が身につく 幼稚園』をめざす ○のびのびと明るく元気な子ども ○子どもの笑顔が輝く 幼稚園 ○身近な自然に親しみ豊かな心情や創造力を育む 幼稚園 ○子どもに寄り添い、深い信頼感や安心感を育む教師 ○互いに協力してチャレンジする教師	○自分のことを自分でしようとする子ども ○基本的な生活習慣を身につけ健康な子どもが育つ幼稚園 ○保護者や地域から信頼される幼稚園 ○楽しい教育活動を工夫する教師 ○人間性豊かで、指導力の向上に努める教師	○友達と心を通わせ思いやりのある子ども ○自分なりに表現する子ども ○最後までやり通す子ども ○友達とつながり自主性や社会性を身につける幼稚園 ○環境や人とのかかわりが広がるよう工夫する教師		
経営の柱	今年度の重点目標	評価項目	自　己　評　価		学校関係者評価	改　善　策　等	
			達　成　状　況	評価	考　察		評価
保育・教育活動の充実	遊びを充実させる環境構成を行う。	〔教育活動・指導〕 幼児期の発達や学びを踏まえた教材を工夫して環境を構成する。	クラス担任で各保育室の環境を見合い、気づいたことなど意見交換をおこなったり、子どもの姿から、興味や関心を探り、子どもが選んだり触れたりしたくなる素材の置き方や環境を設定することを心がけてきたことで、色々なことに興味をもって遊ぶ姿があった。しかし、異年齢が一緒になって遊ぶ機会や発達の理解や捉えは不十分だった。	B	自分だけで環境の見直しを行うことは限界があるので、日頃から担任間で相談したり見合ったりして意見交換を行い、日々の保育に生かそうと前向きに取り組んでいる。 保護者アンケートの満足度も高く先生方の意識も高いと感じる。	A	環境を見合うことが改善策にもつながるので、計画を立て継続していく。 遊びが充実できるように、子どもの発達や育ち興味関心(子どもの主体性)と共に教師の意図のバランスを考えながら、遊びの充実をめざした環境の構成や教材研究を行う。
	自分の思いや考えを言葉で表現し、伝わる喜びを感じたり、相手の思いにも気づいたりできるように発達に応じた援助と環境を工夫する。	〔教育活動・指導〕 自分の思いを表現し、伝わる喜びを感じられるような保育の展開	園生活の中で教師が関わり、友達同士を言葉や遊びでつないでいき友達や教師との言葉のやりとりを楽しむ姿が見られてきた。しかし、教師とのやりとりだけで満足している子どもが多く友達同士というところではまだ課題が残る。 トラブルの時には、互いの気持ちを受け止めたり、知らせたりしてきた。また、クラスの中でも話題にし、子ども達が相手の立場になって考えられるような機会も作ってきたが、まだ自分の思いを言葉で表現することが難しい子どもの姿や、言葉の使い方や自分の気持ちを言葉で伝えることは、園の課題である。	B	言葉で思いを伝えることに丁寧に取り組んでいる。 子どもが園での出来事を話してくれる中で、先生がじっくりと話を聞き、友達の思いにも気づけるような丁寧な対応が感じられた。 今後も保幼小中の連携活動の中でも取り組んでください。	A	各年齢に応じた対応を丁寧にを行い、伝わる喜びや達成感が感じられるように経験を積み重ねていく。
	日々の保育を振り返り、子どもの姿から発達を捉えたり、保育のねらいを意識した、評価・反省から手立てを考えたりしてよりよい保育につなげていく。	〔教育活動・指導〕 保育を振り返り、改善する。	記録や週日案で日々の保育の反省や振り返りがきちんとできた。 その日の保育や記録だけでなく学年で話し合い、他の職員と子どもの姿を共有し振り返り「次は、こうしてみよう」と手立てを考える事ができた。しかしクラスや一人一人の発達を踏まえて保育の改善ができたかということについては課題が残る。	B	記録や週日案を活用して、日々の保育の反省や見直しを行っていることが改善へとつながっていると思う。 日々当たり前に思える取り組みを継続していくことは難しいことがあるが、効果のあることである。保育内容の改善に向け続けてください。	B	日々の保育を振り返り、ねらいに即した評価を行い、改善を行う。
職員の育成・資質向上や運営	教職員の安全対応力を高め、子どもが自ら身を守ることができるように安全教育を進めていく。	〔安全管理〕 教職員・幼児の安全対応力を高める。	職員間で遊具などの安全確認を行うことができた。 保育室での動線や環境など避難訓練経路が確保されていないことや危険への職員間の認識には差があった。 安全に遊べるよう使い方やきまりなど子ども達へ伝えているが、積極的に守る子どもと自己抑制の難しさや大人の関わりがないと守れない子どもへの援助が必要である。 また、起伏や障害物のない場所で転んだり、鉄棒やブランコで手を滑らせたりすることも見られたことから、自分で危険を回避することはまだ難しいことが分かった。	B	火災・地震等の災害時避難訓練だけでなく、不審者対応や安全確認等の対応もされている。 遊具・施設面での安全管理・点検も必要だが、4.5歳児には自身で使い方を考えたり、安全に楽しく遊ぶためにどうすればいいのかを考えることは必須で大切なことなので、今後も取り組んでいってほしい。	B	避難訓練は、保護者や地域と連携し内容の充実を図る。引き続き状況に応じて機敏に体を動かすことができるように体を使った遊びを保育に取り入れ充実を図る。
	幼小連携教育を充実させる。	〔幼小連携〕 幼小の円滑な連携・接続に向けた指導の工夫	コロナ禍で限られた活動や交流だったが、年長児と小学生との交流は、事前事後の話し合いを行い進めることができた。しかし、その内容が詳しく職員に共有できていなかった。 園内研修を通して、小学校や保育の職員に保育を見てもらう機会があったが、幼稚園教育で育みたい資質・能力や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に触れ話し合うことができなかった。 保育所との交流は、保育所と幼稚園互いのカリキュラムを見合うことができたことは前進であった。	C	コロナ禍で交流活動としては難しい面もあったが、できる方法を探り、幼と小は、研修等で互いの幼稚園教育と小学校教育を見合ったり、工夫して6年生と年長児の交流など連携はできていた。 保と幼も互いのカリキュラムを見合うことや、年間計画を立て行事だけでなく日常的に交流、連携を持つことが出きている。	B	コロナ禍でも交流が行える工夫を次年度も引き続きり実施していく。 幼・小の教職員が、幼児期から児童期への発達と保育・教育内容を踏まえて、子ども達の育ちの連続性を共有し連携を進めていく。
地域に開かれた園づくり	保護者や地域に対して積極的に情報発信を行い、開かれた幼稚園づくりに努める。	〔情報提供〕 保護者、地域に幼児の育ちが伝わる工夫	クラスだよりでは、イラストや写真を入れたり、エピソードを交えたりして読みやすい文章で子ども達の姿を伝えられるように工夫をし作成したことで、保護者の方から成長を感じ嬉しかったという声が多く聞かれた。また、登降園時に、掲示板に貼ってあるドキュメンテーション(園での活動)を親子で見ながら会話をしている姿も見られたことは成果である。 地域の方には、子ども達の成長が分かってもらえるように、学年ごとに子どもの作品に子どもの発達のポイントを書き入れて、支所や郵便局に飾らせてもらった。香我美支所や郵便局からは喜ばれたが、保護者の反応は少なく、園からの発信が不十分だった。	B	地域への発信として、定期的に郵便局や香我美支所に園だよりや作品を展示などコロナ禍の中で工夫していたと思う。お客さんにも好評で、伝わっていることや反応してくれる声もあるので、継続していくことが大事だと思う。 今後も保・幼・小の立地の良さを生かし交流を活発にして異年齢の子どもの学び育ちをサポートしていただきたい。 園からのおたよりは、写真や細かいエピソードも入り、見ているような気持ちになった。引き続き保護者が読んで楽しめる紙面づくりに努めてください。	B	地域と園がつながるよう伝えたい内容を様々な形で幼稚園生活の情報が発信できるように工夫し継続する。 保護者には、コロナ禍でも園での様子がわかるように内容を工夫し、おたよりやドキュメンテーションなど保護者への発信を充実させる。
	保護者と連携し、感染予防と衛生管理に努める。	〔保健管理・保護者との連携〕 子どもや保護者の健康に関する意識を高める指導の工夫	手洗い場の並ぶ位置に星や足形などを貼ったり、よく触れる場所にウイルスのイラストを貼り、手洗いを促すきっかけとして環境づくりをしたり、食後のうがいは、手洗い場の真ん中2つは使わないように表示し、口から吐き出す時の指導をしてきた。また、机の配置やアクリル板を使って飛沫を防ぐなど消毒だけでなくいろいろな対策を実践できた。 コロナマンネリ化や寒さもあり手洗いが雑になってきたり、必要性は分かっているが、忘れたり、まだ進んで手洗いうがいをを行うことができなかったりする姿もあり、マスク着用なども含め、もう一度教職員も意識して感染症対策を行う必要がある。	B	コロナの感染対応をはじめ、健康管理について丁寧にされている。子ども自身が気を付けて、健康管理、感染対策をしていくことが、家庭への啓発や園で行っていることへの理解につながっていくので、良い取り組みだと思う。 園行事等も密にならないように工夫され、感染対策も行い努力されている。	B	幼児が自分の健康に関心をもち、自分で守る力が身につくよう家庭と連携して取り組みを継続する。 保護者にも生活習慣の必要性を保育所と連携し、啓発し伝えていく。

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要